



真心の行動 慈愛の奉仕 平和に挺身

1995—96年度国際ロータリーのテーマ

ハーバート G ブラウン
国際ロータリー会長

第2560地区
ガバナー——重 田 政 信
会 長——石 橋 育 於
会長エレクト——捧 賢 一
副 会 長——五十嵐 総 一
幹 事——松 谷 昊 吉
副 幹 事——五十嵐 昭 一
S A A——清 水 良 一
副 S A A——菊 池 涉

例 会 日——毎週水曜日 12:30～
例会場及び——三条市旭町2—5—10
事 務 局——三条信用金庫本店内
例 会 場——TEL 35—3311
事 務 局——TEL 35—3477
FAX 32—7095

本日出席会員数	80名中 53名
先々週出席率	85.53 %
前年同期出席率	

ビジター

三条南より 丸田肇一さん

相田明雄さん

新潟南より 高橋 登さん

先週のメイクアップ

3/11 三条南へ 熊倉昌平さん

3/12 三条北へ 広岡豊作さん

高橋政志さん

会長挨拶

石橋会長

本日は新潟南クラブより高橋登さん、三条南クラブより相田明雄さん、丸田肇一さん、ようこそおいで下さいました。最後までごゆっくりお越し下さい。

昨日は大部寒い日でしたが、そんな中での市内七ヶ校の中学卒業式が行なわれ、私は第三中学校の卒業式に出席致しました。私には中学の子供がおりませんが三中の生徒達のクラブ活動の役員のお手伝を少しさせていただいており

ますので、毎年御案内をいただいております。毎年素晴らしい卒業式ですが、今年とはとにかく大変寒い中での卒業式と言うのが実感でした。明けて今日は入試の合格発表の日です。生徒は勿論の事、父兄、又担任の先生方は大変心配されておられる事だと思います。全員合格出来る学校があれば良いのですが……。

幹事報告 松谷幹事

◎吉田ガバナーノミニ事務所より

1996～97年度ロータリー財団米山奨学会セミナー、地区協議会のご案内がとどいております。

・5月18日(土)
会長、幹事会、財団、米山セミナー
(12:40～20:00)

会場 村上市民ふれあいセンター
義務出席者 次年度地区役員、会長、幹事、R財団委員長、米山奨学委員長

・5月19日(日)
地区協議会本会議、分科会
(10:30～15:05)

会場 村上市民ふれあいセンター
義務出席者 次年度地区役員、会長、幹事、クラブ奉仕、クラブ奉仕(B)、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕、青少年奉仕、R財団、米山奨学、各委員長

◎にいがた、骨髓バンクを育てる会より
骨髓バンクチャリティーコンサート
「ミートス弦楽四重奏団」県内縦断キャンペーンご協力のお願いがとどいております。

ニコニコBOX



松谷さん
お天気が良いのは嬉しいのですが、これから花粉が飛びます、こまったものです。

外山(一)さん
社用のため早退させていただきます。林先生の卓話をたのしみにして居りましたが残念です。

松縄さん
林先生の卓話、拝聴させて戴きます。

池田さん
今年で古稀を迎えました。2月より(マルジュ)の仲間に入りました、とたん血圧が200を超えて先々週、先週休みました相済みません。

林さん
本日、卓話をさせていただきますので……。

佐藤(吉)さん
先日、ロータリーアクトメンバー、ロータリアンの皆様と苗場へスキーツアーに行ってきました。松谷さん、佐野さん、丸山さんにたいへんお世話になりました。

平原(信)さん
都合により早退させていただきます。

3月13日分
¥8,000

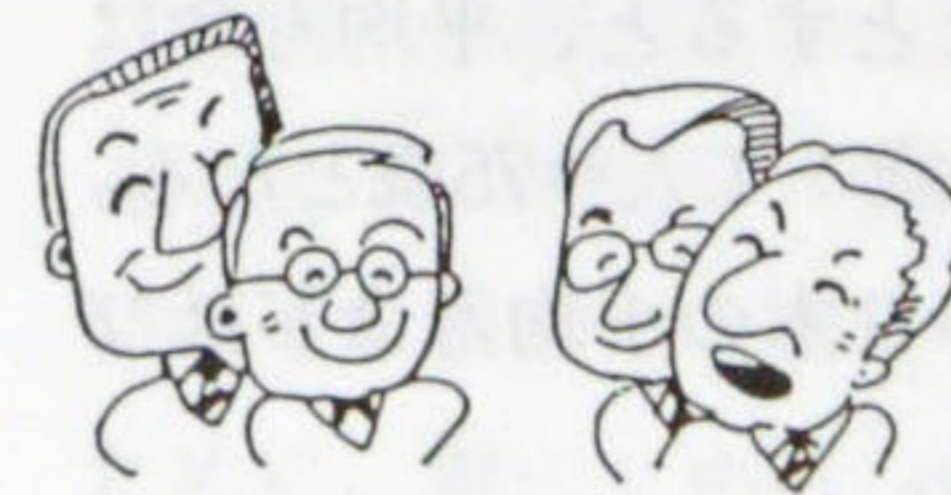
ロータリー財団ボックス

五十嵐(総)さん
長男、高校合格やとホット。

野村さん
孫娘南小学校入学、孫若葉幼稚園入園。
榎本さん

内孫、外孫が多勢おりますと、毎年のように進学、進級がありますけれど大変うれしいです。

3月13日分
¥9,000



卓話

素直に喜べない
世界一の長寿国ニッポン

林 光輝 会員



我が国は世界一のスピードで高齢化が進んでいるが、老後の生活は安心なのか、長寿国ニッポンを素直に喜べるのか、少し説明させていただきます。

昨年の全国高齢人口(65歳以上)は14.5%であるが、20年後の平成28年には25%になることが予測されています。新潟県は全国平均よりやや高齢化のスピードが早く、三条市は新潟県平均よりも若干早い。即ち、三条市の人口は平成28年を待たずに4人に1人が高齢者となるわけです。

昭和初期の寿命では24%の方しか古希(70歳)を迎えられなかったが、現在の平成寿命では74%の方が古希を迎えています。古来稀なりという言葉と思いますが、現在では稀ではなくなり、平成寿命では24

%の方は丁度米寿を迎える割合に一致しています。

昭和から平成にかけて70歳の古希が88歳の米寿にシフトしたことになります。

実際に周囲の高齢者の方を拝見しておりますが大変元気であります。

昔の童謡に“村の渡し船頭さんは、今年60のおじいさん”という歌詞がありますが、現在では60歳をおじいさんと呼ぶことはないように思います。その呼び方だと、世の中はおじいさんとおばあさんで占められてしまいます。

人口学的には65歳以上を高齢者人口としておりますが、時代の流れで高齢者人口を7-8歳上げてはどうかとの話もあるが、定年や年金問題がからみ簡単にはいかない。

はっきりしていることは20年後には4人に1人が65歳以上であり、定年後の20-25年をどのような状態で生活するかということが重要な問題になります。

なぜ日本人はこんなに長生きになったのか、江戸時代の平均寿命は20歳代と記録されているが、現在では82歳にまで延びています。

人口統計を見ると昭和22年から60年までの38年間に平均寿命が25歳と飛躍的に延びており、戦争のない時代、医学の進歩等平均寿命を延ばした理由はたくさんあるが、何と言っても国民皆保険制度の導入が一番の原因だと思います。

例えが悪いが、未熟児を例に考えてみましょう。日本で未熟児が生まれても世

界に誇る日本の健康保険制度により病院で治療を受けることが普通である。しかし、外国ではどうだろうか。健康保険のシステムが日本とは全く異なり、未熟児を治療することになると数千万のお金がかかる場合もあり得る。元気で育つかどうかわからない未熟児に全財産をつぎ込むことができるかどうかである。

日本でも健康保険がなく、おそらく数カ月で死亡してしまう未熟児の治療費に数千万払いなさいといわれた場合を考えてください。家族の貯金で足りず、家を売り、家族が借金に苦しむ状況が予想されるとしたらどう希望するだろう。これが日本の健康保険である。なぜ、未熟児が死ぬ、死なないことが平均寿命と関係するのだろうか。4人の子供のうち3人が80歳まで生き、1人は未熟児で死亡すると平均寿命は

$80歳 \times 3人 \div 4人 = 60歳$ となる。

4人の子供の3人は80歳まで生き、1人の子供は未熟児であったけれど助かって60歳まで生きたとすると、平均寿命は

$80歳 \times 3人 + 60歳 \div 4人 = 75歳$ となる。

子供が死なない日本の平均寿命が延びている理由である。

このすばらしい保険が最近になって大きな問題を提起している。老人医療費の急増である。ある老人が脳溢血で倒れて救急病院に運ばれた。治療の甲斐があり、幸い生命は助かったが植物人間になってしまった。積極的に治療する方法はないが、人工栄養で医学的管理をしており、

自宅に帰れる状態ではない、

このような患者様がたくさん東病院に入院しておられます。

見舞い家族が認識できず、寝返りもできず、鼻からのチューブで強制栄養補給、尿はカテーテルで自動採尿、便は失禁状態、問いかけ反応なし、全てに介助が必要な状態で病状が固定している。この状態で何年も生きるわけであるが、本人や家族はこの状態を心から望むでしょうか。

患者様の御家族、外来患者様等からは、“先生、頼むね、あの状態では生きてる意味がないから、コロッと苦しまずに死なせてくださいよ”と懇願されることがしばしばである。

自分の将来を重複させても、不治の病にとりつかれた場合は医療で強制的に生かされるのはお断りである。

オランダの学会で日本の看護婦が植物人間の症例報告をした時にフロアーから多くの質問があり、その回答に驚いて会場が騒然となったことがあるそうです。

“だれの希望で鼻から栄養を補給しているのか”、“病院に入院しているが医療費はいくらかかり、誰が払うのか”、“何のために、誰のために、何を目的にやっているのか”、回答は“経口摂取が無理だし、意識がないので鼻から栄養をしている”、“数年前までは老人医療費は無料でした”、“誰のために治療しているのか不明です”……。

これは、日本における医療従事者の普通の答弁である。外国では自分の力で食

べることも動くことも、喋ることもできなくなり、人の介助でしか生きていけなくなった場合は、人間でも死を意味することが普通の考えらしい。人間も動物であるという観点に立てば自然かも知れない。

日本では昔から“命はなによりも尊い”との考えが強く生きている。最近になり、尊厳死等の言葉を聞くようになったが、限られた地域で取り扱われているのが現状である。現時点ではこのような患者様に十分な医学的治療を施せば濃厚治療と批判され、治療をしなければ粗診、粗療と批判を受けるので我々医師にとっても大変難しい時代を迎えています。

このような背景で平均寿命が大幅に延び、結果として老人医療費が増加し、保険の財政難を招き、来年度には医療保険とは別に公的介護保険の導入が予定されている。

公的介護保険が導入されても、支払い財源が変わるだけの話であり、残念ながら医療体制には変化しないようです。

最近はPKOでなく、PKKという略語があるそうで、意味は“ピン、ピン、コロリ”だそうです。

例会案内

三条RC	4月3日例会	クラブアッセンブリー
	4月10日	3クラブ合同雑誌月間講演例会 PM12:30~ 於VIP
	4月17日	春のグルメ例会
三条南RC	4月1日例会	卓話 本道 彰会員 (例会場はVIP)
	4月8日→10日に	3クラブ合同雑誌月間講演例会
	4月15日	花見例会
三条北RC	4月2日例会	目黒宣行会員
	4月9日→10日に	クラブ合同雑誌月間講演例会